

# なぜ、3億5千万円の補助金がゼロに？ 全額市民負担で34億円の学校給食センター建設



西小保方町で建設が進む新学校給食調理場

「昨年の9月議会に上程された学校給食センター事業費特別会計の補正予算審議で、西小保方町地内（あずま地域）に建設中の新学校給食調理場（1万2千食調理可能）の国庫補助申請が不採択になったため、市民の借金を3億4千万円増やして全額市民負担で建てることになりました。」

長谷田市議が文部科学省に確認したところ、通常、調理場の改築は国の補正予算対応になるといふことです。既存の3施設を統合する場

合も、改築です。

文部科学省の補助金担当者が言うには、「伊勢崎市は、今年度の当初予算で申請してきたが、この予算枠は新たに事業を始める自治体向けの為、不採択にした。今年度の補正予算では遅すぎる、と次の補助金申請を行わなかった。」ということだ。

市は「3施設を建て替えるので、新築だから当初予算で補助金が来る。」と思いついで、事業を進めてきたようです。

老朽化した3センター（第一・赤堀・あずま）は、いつ食中毒が起きてもお不思議が無いほど老朽化しており危険なため、これ以上先伸ばしは出来ないから補助金は待てないのだといっています。

7年も前から準備を進めてきたのに、補助金の決まりごととも確認せず思い込みで事業を進め、「だめなら全額市民負担で…」というのでは、余りにもずさんな財政運営です。

## 議会エピソード 11

新日本婦人の会の皆さんが、昨年9月議会に「学校給食費の無料化を求める請願」を提出しました。

群馬県内には35しか市町村が無いのに、2017年度までに全額無料が8市町村、太田市・前橋市等の様に一部無料や一部助成が13市町村と、合計21市町村がすでに何らかの給食費助成を実施しています。新年度から東吾妻町も全額無料に踏み切り、とうとう22市町村となります。

こういう状況を知って、「とても否決はできない。」と、市議会文教福祉委員会では9月も12月も審議が続けられてきました。昨秋には市議会の第1・第2会派がそろって「学校給食費の段階的無料化の検討」を市長に予算要望したので、3月議会こそ請願を可決するかも…」と期待があつまりました。

ところが、今度も「推移を見守る必要がある」と継続審査に。任期切れで廃案にすることを目的に、形だけ継続審査にする議員は、心苦しく無いのでしょうか？（K）

## 無料生活法律相談会

- 弁護士と市議会議員が応談します
- 毎月第4月曜日 午後6時から
- お申し込みは日本共産党市議へ



北島 元雄

24-8410  
090-4065-2120  
波志江町3626



長谷田 公子

25-1130  
070-5564-6271  
八幡町44